

坂井市版 居場所の包括連携による

笑 顔 で
暮らせるまちづくり



社会福祉法人 **坂井市社会福祉協議会**
総務課 主査 水上真裕

団体概要・事業概要

| | |
|-------|----------------------|
| 団体名 | 社会福祉法人坂井市社会福祉協議会 |
| 代表者名 | 会長 阿古江 唯説 |
| 本部所在地 | 福井県坂井市坂井町下新庄 18-3-1 |
| 組織構成 | 総務課、地域福祉課、在宅福祉課 |
| 職員数 | 常勤 73名、非常勤 61名 計134名 |

地域の情報

人口:90,217人
世帯数:32,534世帯
面積:209.67km²
高齢化率:28.7%
(2021.9.1現在)

- 行政区:442区
- 日常生活圏域:4圏域
- コミュニティセンター:23か所
- 地区ふくしの会:36か所

基本目標:みんなが主役 ふだんのくらしのしあわせづくり

長期アウトカム

- 地域の中での社会的孤立が解消される
- 地域コミュニティが活性化する
- 住民の地域への愛着が向上する

地域の中で参加や活躍できる機会が多くできる

自分の所属できる居場所が地域内にできる

地域福祉に興味を持つ人(企業)が増える

【短期アウトカム】

- 地域への関心が進む
- 団体の活動が活性化する
- 団体間ネットワークが強固になる
- 地域内に参加できる場所が増える

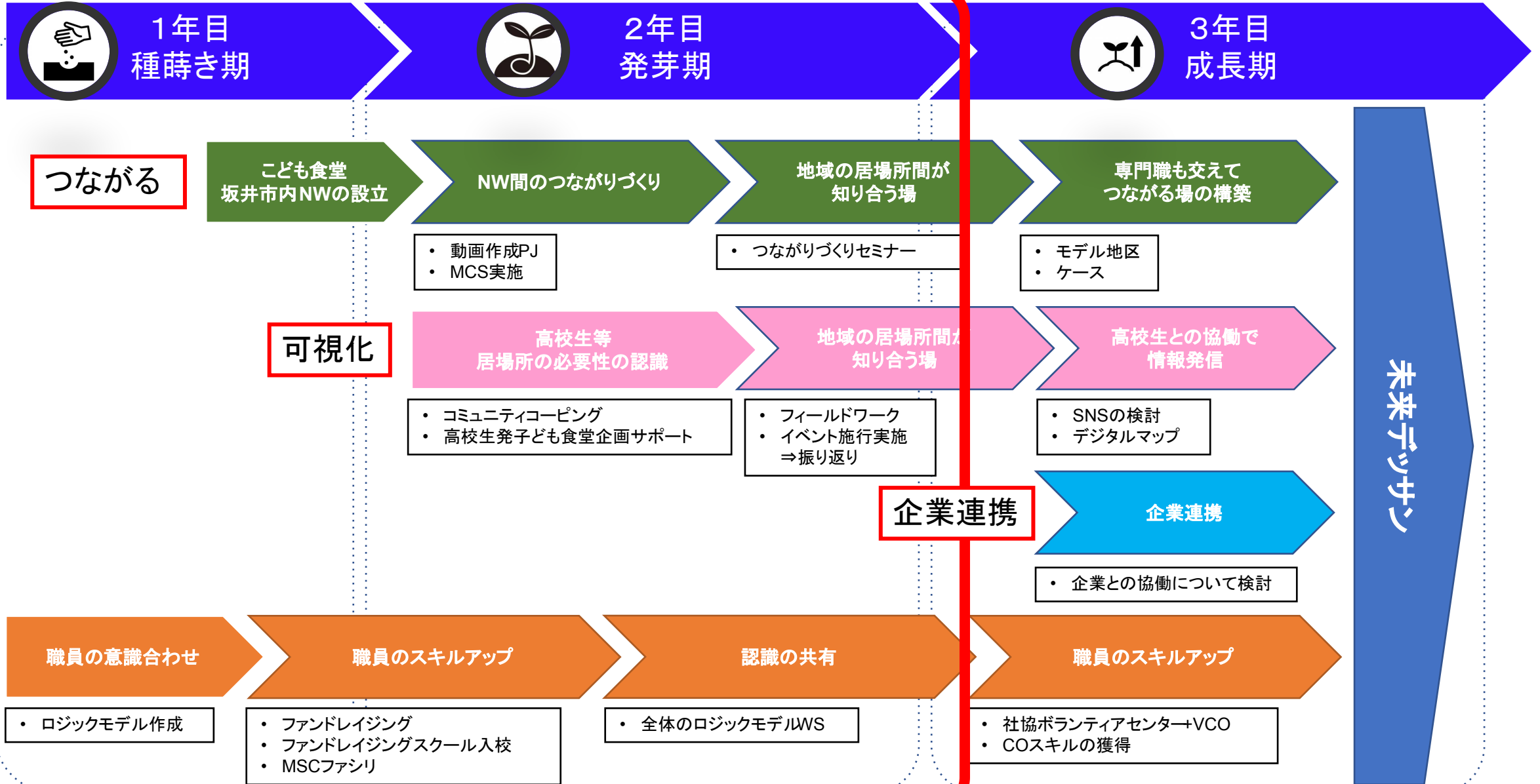
【アウトプット】

- 活動団体の幅が広がる
- 新たな居場所が増加する
- 分野横断の居場所ができる
- ネットワークが強化される
- 無関心層が地域課題に興味を持つ
- 福祉関心者が増加する
- 必要な資源にアクセスしやすくなる
- 住民の福祉教育につながる

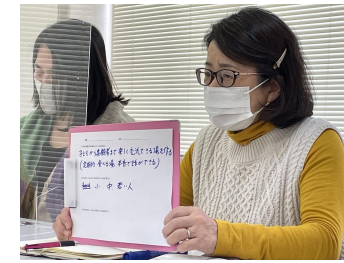
【活動】

- 居場所サミット(つながりづくりセミナー)
- 子ども食堂連絡会
- 地域資源マップの作製
- 地域企業との勉強会
- 職員のスキルアップ
(コーディネーション、ファンドレイジング)

この2年間の取り組み



成果や手応え



1年目「種蒔き期」

- 市内子ども食堂のネットワーク化
 - 活動者の知り合う機会
 - 活動の価値の共有
 - 地域の現状の共有
 → 知り合うことで、つながりへの意識向上
- バックアップ職員の強化
 - 共通のベクトルづくり(ロジックモデル)
 - 団体支援(ファンドレイジング、MSC)
 → 縦割りから横断の意識情勢

2年目「発芽期」

- 属性を超えた団体のネットワーク化
 - 異なる分野と知り合う機会
 - 活動の価値の共有
 - 地域の現状の共有
 → 知り合うことで、つながりへの意識向上
 → 取り組みの視点の多様化

- 学生を交えた取り組み
 - 学生の学びの場
 - 多世代のつながりづくり
 → 興味関心の波及効果
- モデル終了後を見据えた取り組み
 → 組織としての戦略性の学び



2024年度

2023年度



3年目「成長期」

- 知り合うことが活動のモチベーション
- 地縁になじまない人にどうアプローチするか
- 属性を超えたつながりが弱い

2022年度



- 知らないことで一歩踏み出せない
- 地縁関係が強いが知り合う機会が限られている
- 業務の縦割りの弊害

2021年度



実践の手応え

価値観



ストーリー・感情



行動

価値観・ストーリーは

人びとを動かすパワー

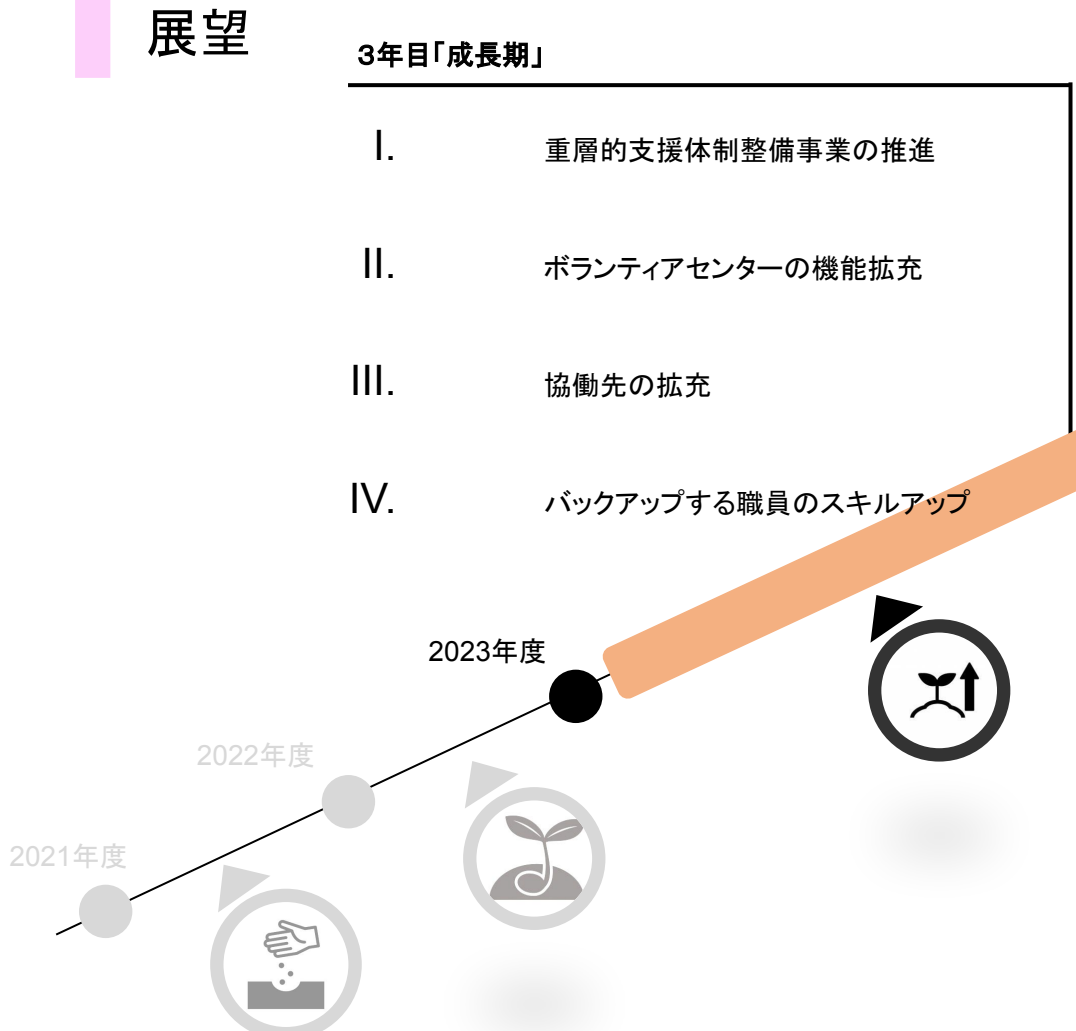
となる



展望

3年目「成長期」

- I. 重層的支援体制整備事業の推進
- II. ボランティアセンターの機能拡充
- III. 協働先の拡充
- IV. バックアップする職員のスキルアップ



- 身近な圏域での資源づくり
(第2層CSWの地域支援体制)
- 主体的に参画できる場づくり
(多様なロールモデルづくり)
- 言葉合わせの機会づくり
(専門職と地域住民が繋がり・学び合う)
- 関係性の構築
(活動や思いのエピソードの収集)

